

中間報告書

令和4年9月13日現在

1 事業名

水害は「逃げるが勝ち！」

2 実施期間

令和 4年 4月 13日～令和 5年 3月 31日

3 事業内容

① 事業の目的・概要

西日本豪雨災害を経験した川辺地区を中心とした真備町の住民が防災減災について考える場を作り、つながりや助け合いの関係性を築きながら防災力向上を目指す。

また、事業を進めていく中で学んだことやノウハウを県内外の方にも伝え、防災に強いまちづくりを目指す。

② 事業の流れ・進捗状況等

<実施したこと>

ア. 川辺防災アンケートの実施

【目的】

- ・令和2年度に行ったアンケートから2年がたち、住民の防災の変化などを把握し、今後の地域防災活動の指針とするために実施。
- ・住民がアンケートに答えることによって、防災について考えるきっかけ作りになるようにする。

【時期】

- ・調査期間 2022年5月9日～31日/結果報告 2022年6月5日/結果郵送 2022年8月29日郵便局持ち込み

【対象】

- ・川辺地区に住む1383世帯

【方法・内容】

- ・香川大学准教授 磯打千雅子先生や国交省/高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所、福祉事業所、災害支援団体・防災士、川辺地区まちづくり推進協議会などで構成される川辺みらいミーティング実行委員会でアンケート内容を精査。配達地域指定にて郵送配布した。アンケートの集計については、香川大学磯打研究室の学生が協力。防災フェス内で結果発表を行った。
- ・アンケート結果を分かりやすくまとめたものを川辺地区住民に郵送した。

【結果】

- ・被災経験のない住民が約1割もいることがわかり、川辺地区に住むすべての人と共に歩む地域防災の進め方について改めて考えていく必要性を感じた。避難に配慮が必要な人については、半数を超えている。しかし、黄色いタスキ大作戦の取組の成果からか、避難時に声掛けをしようと考えている人は7割を超える結果となり、

共助の大切さを感じている人が多いことが分かった。その一方、具体的に避難先を決めることができていなかったり、避難の準備が不十分と感じていたりする住民も多く、これからの取組の参考としていきたい。（アンケートの詳細な結果は別紙参照）

イ. 第8回 川辺みらいミーティング

（黄色いタスキ安否確認訓練・防災フェス・安否確認訓練と防災アンケートの結果報告会他）

【目的】

・昨年行った黄色いタスキを活用した安否確認訓練を今年度も行うことで、黄色いタスキ大作戦の定着と有事の際にタスキを活用しスムーズな避難のために活用できるようにする。黄色いタスキの活用方法について、家族や地域で話題にし、訓練に参加することで、防災意識の向上とつながりの強化を目指す。各町内会への緊急連絡訓練も同時に行い、より実践的な訓練となるようにする。訓練の結果は当日の午後に開催の防災フェスにて行い、課題の洗い出しと今後について考える場となるようにする。

・防災フェスは、楽しく学ぶことができる体験型防災研修とすることで、子どもから大人まで参加できるものにする。

・行政（国・県・市）・NPO・企業・福祉・消防団・地域が協働して行うことで、災害に強い町を目指す。

【開催日時】

・2022年6月5日（日） 黄色いタスキ安否確認訓練 9:00～ 防災フェス 13:00～16:00

【対象】

・川辺地区住民及び、興味のある方

【内容】

別紙チラシ参照

【結果】

・黄色いタスキの安否訓練については、緊急連絡訓練を初めて行うことができ、町内会加入世帯の参加も昨年の77.5%を超える78.8%の住民が参加した。町内会活動も徐々に再開され、つながりの結い直しができつつあるが、町内会未加入世帯については、昨年の39.3%を下回る33.3%となった。取組の周知徹底や今後の情報提供の方法も工夫が必要になってくると考える。

・防災フェスでは、子どもから大人までおよそ185名の参加となった。段ボールベッドの組み立て体験や災害救助犬のデモンストレーション、マンホールトイレの展示など、普段見たり、経験したりできないものも多数あり、楽しみながら学ぶ機会となった。その中で、訓練結果やアンケート結果の報告も行うことで、多くの方と川辺地区の現状を共有することができた。

ウ. 防災カフェ「LINEを使ってみよう会」

【目的】

- ・少人数で学ぶ場を設け、防災をより身近に感じながら意識と知識を高める。
- ・有事の際の情報共有の際に便利な LINE に慣れておくための会を行う。また、使い方を参加者同士でも教え合うことにより、つながり作りの一環とする。

【開催日】

- ・5月11日（水）（NHK スペシャル取材）

【対象】

- ・真備町在住他

【結果】

- ・参加者同士の会話も弾み、和やかな会となった。LINE を使えるようになったことで、古い友人とのつながりができたり、LINE グループに参加できたりする参加者もいた。
- ・災害時の情報不足による不安の軽減や支援の抜け落ちを防ぐためにもとても大切な取組であると感じた。

エ. ぐらしきジュニア防災リーダー養成講座

【目的】

- ・楽しく学ぶことができる機会を作り、自分の命を守るための知恵を身に付ける。
- ・倉敷の災害の歴史や地形などを知り、地域の災害リスクや環境に合わせての防災対策が必要であることを知る。

【プログラムの目標】

<児童・生徒>

- ・自分のみならず家族や友だち、地域の人を災害から守ることの大切さを感じ、避難時や災害時の思いやりや、助け合いの大切さを再認識する。
- ・学んだこと感じたことをもとに、行動に移す機会となるようにする。

<家庭・地域社会>

- ・学校や地域、家庭において、参加者が学んだり、行動したりしたことを十分に認め、参加者の思いを尊重できる環境を作る。

【開催日】 3日連続講座

- ・8月20日（土）10:00～15:30
- ・8月21日（日）8:00～18:00
- ・9月3日（土）9:30～15:30

【対象】

- ・倉敷市内在住の小学5年生（約4800人）

【内容】

- ・別紙参照

【結果】 ※振り返りシートや保護者へのアンケートの結果は集計中

- ・コロナの感染状況を心配して参加者が少ないうえにキャンセルもあった。詳細な感染症対策のマニュアルを作成し、保護者にも内容を共有して開催した。
- ・大学生・防災の専門家・災害支援団体・元校長など多様な講師やスタッフで行うことができ、倉敷市や倉敷市教育委員会にも後援していただき、充実した内容の講座を行うことができた。

- ・受講した子どもたちが目を輝かせながら生き生きと学ぶ姿が見られ、最終日には次回の講座の開講を希望する子どももいた。
- ・3日目には、防災リーダーとして防災の重要性を伝えようとしたり、率先避難や備蓄品の見直しをしようとしたりなど、自分にできることから行動しようとする気持ちを言葉にするようになり、防災意識と知識の向上につながった。

オ. 防災おやこ手帳の発送

【目的】

- ・西日本豪雨災害の教訓を分かりやすく伝え、家庭での防災意識の向上と備えにつながるようにする。

【対象】

- ・必要とされる方

【結果】

・NHK スペシャルで紹介されたことや講演活動の増加に伴い、今年度も多くの手帳を全国に郵送している。防災の取組への応援や防災おやこ手帳の増刷のためにと寄付金をくださる方もいる。

・たくさんの方に注目していただいている一方で、防災おやこ手帳の内容を編集して配布したいとの問い合わせも数件ある。被災者や私たちの思いが歪むことなく手に取った方に伝えるために、転載や複製に対する注意書きを手帳に追記した。

カ. 防災啓発活動

【目的】

- ・被災経験や岡山県備中県民局提案型協働事業で行ってきた防災活動のノウハウを多くの方に伝え、県内外の方の主に水害に対する備えのきっかけとなるようにする。

【内容】

- ・テレビ、ラジオ、新聞、インターネット記事

NHK スペシャル NHK きん5時 山陽新聞 韓国 KBS 東北放送ラジオなど約30件

- ・書籍寄稿 2件

- ・講演 小中学校・国交省主催シンポジウム・岡山市内公民館など20件

<今後、実施すること>

○第9回川辺みらいミーティング（川辺防災チーム結成について11月27日予定）

○黄色いタスキ導入支援

○防災カフェ（避難所運営ゲーム11月19日予定）

（Yahoo!防災アプリデジタルハザードマップを使ってみよう11月予定）

○キッズ防災（新聞紙でお皿を作ってみよう10月8日予定）他

○くらしきジュニア防災リーダー養成講座（認定証などの作成と郵送など）

○防災講演9月27日～令和5年3月末までの現在の依頼数 18件

○防災ベント出展 5件（検討中）

③ これまでの成果・効果、今年度事業終了後の成果・効果の見込み、課題等

おおむね計画通りに事業を進めることができている。新事業のジュニア防災リーダー養成講座では多くの団体との協働であることから、準備に多くの時間と調整が必要となった。そのため、防災カフェについては、コロナの影響もあり開催の回数は少なめだが、無理なく事業を進め、ひとつひとつを大切にしていきたいと考えている。

黄色いタスキ大作戦については、今年度も訓練をしたことによって課題も浮き彫りとなった。西日豪雨災害を乗り越えていくためにも大切な取組として継続していきたい。また、この取組に対して他地域から関心を寄せてくださっている声もあるが、導入支援には結びついていない。今後も、黄色いタスキを活用した地域防災の効果について発信し続けていきたい。

⑪今年度の 成果目標と 評価指標	成果目標 1			
	災害後より進めてきた地域防災のノウハウをまとめ、地区防災計画の骨子案を作成することにより、地域防災力の向上を目指す。			
	評価指標・測定方法	数値目標		
		当初	今年度	現状
	地区防災計画骨子案の完成	なし	1地区	防災チーム結成に向けて取組を進めている
	成果目標 2			
	平成30年西日本豪雨の教訓を多くの人に伝え、防災意識の向上を目指す。			
	評価指標・測定方法	数値目標		
		当初	今年度	現状
	防災おやこ手帳の第1弾・第2弾を必要とする人に向けて配布する。また、講演会で教材として配布する。	約15,500部	25,000冊	合計49,500冊
成果目標 3				
黄色いタスキを活用した安否確認の仕組みの普及				
評価指標・測定方法	数値目標			
	当初	今年度	現状	
黄色いタスキを活用した安否確認訓練の参加率	65.8%	70%	63.3%	
他地区の黄色いタスキ導入支援	県外に1地区	備中地域内に2地区導入	問い合わせのみ	

4 参考事項・資料

収支精算書見込又は収支（変更）予算書※

（収支（変更）予算書※は補助金交付申請書または補助事業変更承認申請書に添付した収支（変更）予算書のこと）

写真（データでも提出すること）

当日資料

アンケート結果 他

令和4年度活動報告 (2022年度)

～防災減災に関わる事業～

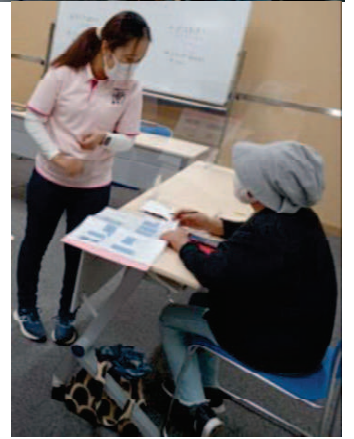
川辺復興プロジェクトあるく

【1】 防災・減災をすすめる事業

防災を身近に感じ、楽しく会話をしたり、お茶を飲んだりしながら防災を我が事として考える場として「防災カフェ」を毎月開催することを予定していたがコロナ感染対策のため開催できない月もあった。

① 防災カフェ(毎月1回程度)

5/11 LINEを使ってみよう 講師(あるくスタッフ) 参加者数3人 補助スタッフ2人



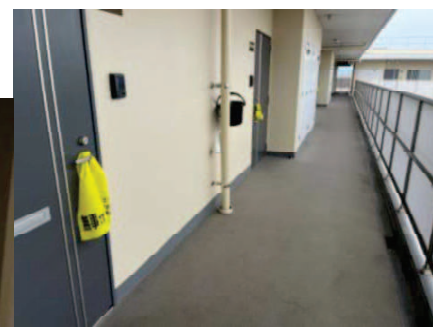
今回のテーマは「友達追加」「友達にメッセージを送ろう」で、LINEの使い方を楽しく学びました。初めての参加者もあり、お一人は、LINEを使っているが「お友達追加とグループLINEを作りたい！」と「時々息子や家族に尋ねるが操作してくれるから覚えられなくて、すごく悔しい思いをしていたんよ」と、一緒にやってみると「自分で操作できたから、帰ったらやってみる！」と帰られました。後日「今日、3人で集まって習った方法でLINE登録することができました！」と返事がありました。「質問したいこと、知りたいこと、できなかったことが解決できて、勉強になって一時間があっという間で楽しかった」と実際に使えるようになることは、情報を簡単に取り入れることができたり、繋がりが増えることにつながる。次は「川辺地区みんなの会」のLINEに入れるように開催をしたい。

6/5 「川辺地区みんなの会」のLINEに参加しよう！

防災フェスのコーナーに7人参加された。

身近な人とつながることができ大切な「いざという時の地域の情報」を取り入れたり共有することができる。改めて、避難のこと、防災について考える大切な機会となった。

月1回程度の開催を目指しているが、コロナ感染拡大が急増していることで、防災食など工夫して実際に作って食べてみるという内容はなかなかできず開催できずにいる。何かのイベントで簡単なことから開催を目指していきたいと考えている。



昨年引き続き、出水期を前に黄色いタスキ大作戦の訓練を行った。町内会の代表、町内会未加入世帯には民生委員などが手分けをして、タスキの掲げている数を数え集計した。

午後からの「みらいミーティング」において、訓練の結果とアンケート結果の報告を行った。
(黄色いタスキ大作戦 結果)

2021年 65.8% (加入世帯77.5% 未加入世帯39.3%)

2022年 63.3%(加入世帯78.5% 未加入世帯29.5%)

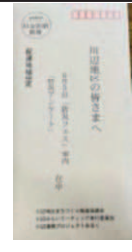
今年は、町内会単位での取り組みとして、声掛けや連絡を取り合う方法を考えて実践した所があり、黄色いタスキ大作戦の「地域の一体感」を感じられた。また、新たに移住してこられた方からの「黄色いタスキをください」との連絡に手分けをして説明と配布も行った。これらの取り組みなどから、全体の結果では、やや減少したように見えるが加入世帯では増加している。今後も細やかな取り組みを継続することで、地域のつながりを深め訓練だけではなく「いざという時、災害が発生した時」に声をかけ合えるきっかけとしての「黄色いタスキ」を使えるようにしていきたい。継続した取り組みが必要であると改めて感じた。

(課題・参加者の声)

- ・町内会未加入世帯(アパートなど)地域の情報が伝わりにくい人達との防災への取り組みについて誰がどのようにかかわることができるか。

- ・住民が黄色いタスキを掲げる時期とか意味をもっときちんと共有しておく必要があるのではないか。

- ・逃げ遅れゼロを目指すには自助(まずは自分、ご近所)が大事であり、各町内会やお家の中でも話し合いをしていく必要がある。



6/5開催予定の「体験型防災フェスの案内、黄色いタスキ安否確認訓練のお知らせと川辺地区防災アンケート」を同封し、川辺地区**1383世帯**に配達地域指定で送付した。

【アンケートの目的】

被災から4年を前に、住民の防災に対する意識の変化や備えについてなど、今後の地域防災の指針となるよう現状を把握すること。

そして、体験型防災フェスの案内なども一緒に配達地域指定にすることで、地域の情報が届きにくい町内会未加入世帯にも届けられるようにした。同じ地域に住む全員を対象として「逃げ遅れゼロ」を目指す活動としていきたい。

また、ボランティア募集に対してのチラシも同封し「被災後多くのみなさんから受けた支援に少しでも応えられるなら」「町内会未加入者にポスティングならお手伝い可能」との回答する人もあった。これらの言葉から、少しずつではあるが地域の防災を考える中でつながりが大切であり、自分事に捉えられるようになったと感じられる。

黄色いタスキ大作戦結果報告・防災アンケート結果報告(8月)

川辺地区にお住いのみなさまへ
川辺地区防災アンケート・黄色いタスキ訓練について（お礼）

暑い夏が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか。
2022年5月から6月にかけての川辺地区の取組に対して、ご協力いただきありがとうございます。
5月に川辺地区の各様に地域指定郵便で各家庭にお届けした「川辺地区防災アンケート」を1383世帯に配達したところ、618件のご回答をいただきました。
また、6月に行なった「黄色いタスキ安否確認訓練」には多くの方のご協力で、約6割の方が黄色いタスキを玄関先に懸け、逃げ遅れゼロに向けた思いを確認し合うことができました。訓練があっただけの準備では、川辺地区全体で防災意識を高めよう！「防災フェス」多機能。さらに、お礼のようにお返事を考えてお返しをさせていただきます。
参加してくださった方から「継続的に開催してほしい」とのご意見を多数いただいております。被災は自然・災害・事故・火災であり、たぐいに「自然」と「人為的」は私たち自身の意識を地域防災での取組が重要となります。～から、災害に強い町を目指し、歩み止まりの心となく取り組んでいきたいと思っております。

さて、皆様にご協力いただいた川辺地区防災アンケートの結果と黄色いタスキ訓練の結果をお届けいたします。防災フェスで行った報告会の様子もYouTubeでご覧いただけるようにいたしました。このお手紙や動画をもとに、改めてご家庭や地域で防災について考えもきっかけとなれば幸いです。最後に、川辺地区に対してお礼を申し上げます。活動にご参加いただいた住民のみなさま、協力いただいた団体のみなさま、感謝申し上げます。今年もどうぞよろしくお願いたします。

川辺地区まちづくり推進委員会 会長 加藤良子
川辺地区まちづくり推進委員会 委員 松本竜也
川辺地区まちづくり推進委員会 代表 橋原聡美

動画はこちらから
YouTubeでご覧いただけます
<https://youtu.be/uh0RLwUdE>

※ 動画内の黄色いタスキ訓練結果報告は「通報」です。多くご覧ください。
※ より詳しいアンケート結果をご覧になりたい方は、090-5762-0111 arifu.2018.10.19@gmail.com

「川辺防災アンケート結果」1383世帯中518件の回答があった。今回のアンケートの結果で得られた結果から見たことは、被災後に真備以外から川辺地区に新たに入居した人が回答者の8.3%あり、被災経験のない人に情報を伝える方法を考える必要がある。

「黄色いタスキ」は、目に見えるつながりを感じられるものとして、今後も訓練を重ねていくことが大切である。

いざという時「声掛け」が重要だと感じている回答者が73%とつながりの大切さを感じている。

しかし、被災経験をしていても、いざという時の避難準備ができていないことも明らかになっている。

今後も、引き続き関係諸団体と協力し地域の防災に向けて取り組みを進めていく必要があると考えている。

このようにアンケート結果と黄色いタスキ大作戦の取り組みについてまとめたものを**1561世帯**配達地域指定で郵送した。



YouTube視聴
47回

「黄色いタスキ」への取り組み ～逃げ遅れを無くしたい強い思いが多くの方の参加に！～

<p>2019年07月 日本赤十字社 消防、声かけの 楽しさを体験</p>	<p>2020年10月 防災訓練 何と声かけの方向を 振りたいたと結果確認</p>	<p>2021年09月 防災訓練 結果65.8%</p>	<p>2022年06月 防災訓練 結果63.3%</p>
---	---	--------------------------------------	--------------------------------------

みんなで情報を共有することや伝え合うことばっても大切ですね！
訓練の様子はこちらNHKワールドプレミア「朝日」でも放送されました。

多くの方のご協力町内会ホスター掲示できました！
【黄色いタスキ取り組みで考えられるメリット】

【訓練を実施して見えてきた課題】

これがポイント(1)！
町外からの新しい住民のみなさまにもお伝えすべき大事な経験があります。

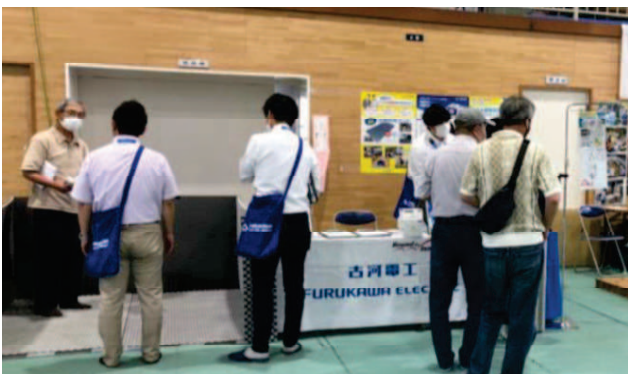
防災アンケート結果のご報告
町外から移住された方が2022年(6/5)のアンケート結果から見ると、川辺地区に303世帯(22%)の移住者がいらっしゃいます。

これがポイント(2)！
防災訓練者だけでなく「自分」の大切さを伝えて命や生活を繋げてあげてほしい。

これがポイント(3)！
色んな家庭が日頃からつながりあってこそ逃げ遅れゼロを目指すことができます。

これがポイント(4)！
被災を経験していても今後の避難準備はまだまだです。改めて一緒に考えてみましょう。

第9回 川辺みらいミーティング 体験型 防災フェス —黄色いタスキ大作戦—



昨年開催できなかった「体験型防災フェス」防災・備えのヒントになるように県内外からの企業や団体が出展協力してもらい多世代にわたる参加者があった。協働の県民局からは沢山の防災関連の資料の展示、倉敷市からは地震の避難所開設に必要な備蓄倉庫の開示やマンホールトイレの開設についての説明。備えのヒントに、「一般社団法人epoおかやま笑顔プロジェクト村上浩司（以下笑顔プロジェクト）」から、備蓄品や非常持ち出し品と民間救急車の展示。「特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン（以下PWJ）」は、災害救助犬のデモンストレーションや段ボールベッド作りの体験。クレストビークルからは、車中泊の参考にキャンピングカーの展示。古河電工からは空気清浄機などの展示。など、他にも展示ブースがあり、おすすめの防災食をセットで購入できるコーナー「MTネット」では直接話を聞いて自分の好みに合わせて購入することができて備えのチャンスになった。

また、今年度は、防災を考える日として、地域の各種団体の協力もあり、消防団は消防車の展示、午前中は小学校PTAが中心となり「防災クイズ・ウォークラリー」を開催し各ポイントでは地域の人から水害の歴史などのクイズに答えるというように、地域一体となる活動を行うことができた。終了後防災フェスに立ち寄れるなど地域全体が参加しやすい環境で広い世代での参加があった。特に、子どもたちが積極的に段ボールベッドを組み立てているところは、楽しみながらではあるが、いざという時の避難所運営の担い手となる可能性を垣間見ることができた。

町内会未加入世帯や・高齢者に、いざという時の情報収集が届きにくいという課題に対して、LINEグループ「川地区みんなの会」に参加してもらえるようにコーナーを設け、あるくが担当し、直接顔の見える関係の中で安心して操作をしてもらうことができた。

参加人数 185人



この講座は、西日本豪雨災害を経験した中で、子どもたちが発した言葉で避難の行動に繋がった家族も多くあった。今後、災害大国日本で生き抜くためには子どもたちへの防災教育が重要となっている。

このようなことから、子どもたちが「災害から身を守る術」を楽しく学ぶことができるように「体験・見る・学ぶ」を柱に3日間のコースを計画し、県民局をはじめ倉敷市、倉敷市教育委員会のご理解と後援をいただくことができた。

講師として香川大学先生、学生、災害支援団体、元小学校の先生、地域団体など多くの協力をいただいて開催することができた。残念ながら、コロナ感染拡大の影響もあり、参加希望12人→参加者9人となってしまったが、感染、熱中症対策をスタッフ全員で共有して開催の運びとなった。

倉敷市内の小学校へ5000部配布



★自分の命、大切な人の命を守るために行動します
★あいさつや声掛けをして友達。家族・ご近所さんを大切にします



人と防災未来センター・神戸港震災メモリアルパーク 研修



★避難所で困っている人がいたら、声をかけます
★災害の怖さをみんなに伝えて早く避難します
★非常食を定期的に見直して災害時に備えます

子どもたちが考えた心得

(講座のねらい)
・講座を通して学んだことを、家族やお友達に伝える人になる。・「一緒に避難しよう」と声をあげられる人になれる。・「くらしきジュニア防災リーダーの心得5つ通して」を講座を通して考え身に着けられる。

1日目
・防災おやこ手帳で「水害は逃げるが勝ち」を学ぶ・身近なもの「新聞紙、牛乳パック」使って器とスプーンを作る・倉敷の災害の歴史を学ぶ・大学生が考案した防災ゲームで楽しく防災を学ぶ
(参加者の声)
器を作るのが難しかったけどこんなやり方があることを知ることができた。家族や友達に伝えてみんなで命を守っていきたい。

2日目
阪神淡路大震災の経験や教訓を紹介している「人と防災未来センター」を見学した。PWJがガイドしてくれ、地震や土砂災害の模型での実験を体験したり、災害を経験した方のお話を聞いた。持っていたメモが一杯になるほど書き込まれていて気づきが沢山あったようだ。

(感想)
地震の再現映像だとわかっていただけでも怖かった。阪神淡路大震災のような地震だと物が飛んでくると知った。備えをするように家族と話したい。

3日目
コロナ感染が急激な拡大する中、倉敷市消防局からの救命救急講座に派遣されなくなり、講師でもある「応急手当普及員：笑顔プロジェクト村上氏」から心肺蘇生・AEDの使い方・三角布をたたんで包帯にして応急手当ができる方法や、物干し竿と毛布で担架を作り人を運べるなど体験した。民間救急車両の見学をして、防災食(水を加えておにぎり、具沢山豚汁が煮込みハンバーグをを選び食べて、宿題だった防災クイズを披露しグループ対決で盛り上がり、最後は「くらしきジュニア防災リーダーチャレンジテスト」で学んだことを再確認した。
(感想)宿題の防災クイズで、知らないことも楽しく学ぶことができた。

防災おやこ手帳 配布の準備作業



6/5放送されたNHKスペシャルで「防災おやこ手帳」を紹介していただいて全国からお問い合わせを沢山いただき9月9日現在175件の申し込みがあり（第1弾 4507 第2弾 4517）発送している。

今回の特徴は、家族で使用するというより、地域の防災研修で使うとか、地域のイベントで配りたいなど数もまとまった量での申し込みが多くある。

また、学校の授業で使うなどの問い合わせも多く来ている。県内は講演依頼を受ける度に配布するなどに対応することが多く、近くだからと取りに来られることも多くある。倉敷市内の女性消防隊での集会や倉敷市内の地区全体に配布希望など広がりが見られることは身近な所にも伝わっていることなので、地道な活動を続けていきたい。

（感想・応援メッセージ）

- ・もっとメディアで取り上げられて、全国の学校で防災教育に活用されることを期待します。
- ・素晴らしい取り組みですね。水害で亡くなる人をゼロへ向けて頑張ってください

第8回 川辺みらいミーティング

雨天決行

※気象警報発表の
場合は中止

体験型 防災フェス

— 黄色いタスキ大作戦 —

先着 200 名様

防災グッズプレゼント

防災フェスでスタンプラリーに参加
して下さった方に、すぐに備える
防災グッズをプレゼント！

1

自宅にて
全員参加

10時開始 /

黄色いタスキ 大作戦！



黄色いタスキで安否確認トレーニング！

- ① 10時までに黄色いタスキを玄関先に結ぼう！
都合の合わない方は10時よりも前に結んで、そのままおでかけしてもOK！町内会の代表や担当者が地区を回り、タスキの数を数えるので14時まで結んでおいてください。
- ② お隣さんはどこに結んでいるのか、お互いに確認してみよう！
いざという時の安否確認の練習にもなります。
- ③ 川辺小学校体育館での体験型防災フェスへ参加しよう！
※タスキが置いていない方は、裏面の問い合わせ先にご連絡ください。

2022/ **6/5** 日

13:00 ~ 16:00

場所：川辺小学校体育館 他

対象：川辺地区にお住いのみなさん
関係のある方

災害時に大活躍の
ワンコが登場よ！

災害救助犬デモンストレーション

箱に隠れてみよう！
ワンコが見つけてくれるよ。
第1部 13:30 ~ / 第2部 15:00 ~



2

川辺小学校
体育館
は集合

13時開始 /

体験型 防災フェス

(入場は 15:30 まで)

見て、触れて、学べる、みんなの防災体験！

防災グッズの展示、防災冊子の配布、防災科学実験と工作など、子どもから大人まで学べる様々な防災に関するコーナーを用意しています。(詳細は裏面参照。都合により変更になる場合がございます。) 時間内にいつでも、ご都合のいい時間にお越しください。

目指そう！逃げ遅れ“ゼロ”の川辺地区

今年も、出水期がやってきます。また、最近多発している地震のことも心配ですね。
今回は、西日本豪雨のときの「ご近所さんが大丈夫なのか心配だった・・・」の多くの声をもとに、
黄色いタスキを使った安否確認の訓練と、
老若男女問わず、楽しみながら防災・減災を学ぶことができる体験型の防災イベントを企画しました。
黄色いタスキを結んだら、みんなで川辺小学校体育館へGO！！

ブース内容

※都合により変更になる場合がございます。

岡山初!!

民間救急車
(災害支援車両) が
やって来る!



キャンピングカー
の展示



災害救助犬
デモンストレーション
第1部 13:30 ~ / 第2部 15:00 ~



展示・体験
コーナー

- ・防災関係パンフレット配布・防災食と水の配布・パネル展示 (岡山県備中県民局)
- ・防災食・防災グッズ・民間救急車(災害支援車両)の展示 (一般社団法人 epo おかやま笑顔プロジェクト)
- ・マイタイムラインコーナー・動画の上映・河川工事のパネル展示 (国土交通省 / 高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所)
- ・マンホールトイレ展示 (倉敷市下水道課)
- ・川辺の防災倉庫には何が入っているかな? 見てみよう!
& 防災倉庫にある発電機を動かしてみよう! (倉敷市危機管理室)
- ・キャンピングカーの展示 (株式会社クレストビークル)
- ・川辺地区みんなの会に参加しよう! (川辺復興プロジェクト あるく)
- ・おすすめ防災食セット 1セット 1000円※40セット限定 (MT-NET)



お願い

駐車場はありません。

近所の方にご迷惑にならないようにお願いします。
なお、車いすの方など配慮が必要な方には、
駐車場をご用意します。

コロナ対策の為、
マスクの着用・咳エチケットをお願いします。
検温にご協力ください。

主催：川辺地区まちづくり推進協議会 / 川辺みらいミーティング実行委員会

協力：香川大学防災・危機管理コース / 川辺小学校 / 倉敷市 / 国土交通省 高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所 / 特定非営利活動法人ピースウィングス・ジャパン / 古河電気工業株式会社 / 一般社団法人 epo おかやま笑顔プロジェクト / 防災専門店 MT-NET / 株式会社クレストビークル

黄色いタスキ大作戦チーム：愛育委員会 / 衛生協議会 / 栄養改善協議会 / 川辺小学校 PTA / 川辺分館管理組合 / 川辺幼稚園 PTA / 倉敷消防団真備第1分団3部 / 児童委員 / 地区社会福祉協議会 / 婦人会 / 民生委員 / 老人クラブ (※団体名は五十音順)

お隣さんは
無事かな？

安否確認訓練

黄色いタスキ大作戦

- 川辺地区にお住まいの皆様へ -

今年も、出水期がやってきます。“逃げ遅れゼロの川辺地区”を目指す取り組みのひとつとして、今年も黄色いタスキを活用した『安否確認訓練』を行います。

災害で命を落とす人がないように、危険が差し迫っていることを知らなくて逃げ遅れた…。そんな人を一人も生み出さないように、みなさんで地域力と防災力をアップしていきましょう。ぜひご参加くださいませ。



訓練日時

2022年6月5日（日） 9:00～16:00

- 皆さんにさせていただくこと -

10:00 までに「黄色いタスキ」を自宅の玄関先に結びつける。

※当日、お出かけされる方は、前もってタスキを結んでおいてください。

※16:00 までは掲げておいてください。



黄色いタスキを掲げている軒数を数えます。

地区委員さん・担当者さんは皆さんの家を廻って軒数を数え、本部に報告します。



14:00～ 川辺小学校にて

住民アンケートと黄色いタスキ訓練の結果報告をします。ぜひお集りくださいませ。

「黄色いタスキ」をお持ちでない方はご連絡ください！

【主催】川辺地区まちづくり推進協議会 / 川辺みらいミーティング実行委員会

【問い合わせ先】事務局 川辺復興プロジェクトあるく

TEL：080-5752-0111 MAIL：aruku.2018.10.18@gmail.com

楽しく学んで、防災博士になれる3日間!!

くらしき

ジュニア防災リーダー

養成講座

2022

8/20(土)・21(日)・9/3(土)

倉敷市芸文館 防災研修バス旅行 倉敷市民会館
(201会議室) (倉敷市内集合) (第4会議室)



防災グッズを
手作りして
みよう!



防災食を
食べて
みよう!



命を救う
技術を
学ぼう!



災害の
歴史を
学ぼう!



ゲームで
楽しく
学ぼう!



日時/会場

- 第一回：2022年8月20日(土) 10:00～15:30
倉敷市芸文館 201会議室(倉敷市中央1-18-1)
- 第二回：2022年8月21日(日) 8:00～18:00
※集合場所については別途ご連絡いたします
- 第三回：2022年9月3日(土) 9:30～15:30
倉敷市民会館 第4会議室(倉敷市本町17-1)

対象

倉敷市内在住の小学五年生(定員30名程度)

参加費

3000円(保険、資料、研修費用として)※初日に会場にてお支払いください。

お問い合わせ

川辺復興プロジェクトあるく 080-5752-0111

お申し込みはLINEから

- 下記QRより、倉敷ジュニア防災リーダー養成講座の公式LINEとお友達になる。
- 届いた友達追加のメッセージから、必要事項を記入してLINEで返信する。
- 受講者専用のLINE公式に招待するQRが届くので、そちらからお友達追加をする。

※お申し込み後の連絡事項や動画視聴学習のURLなども公式LINEからお知らせいたします。

申込受付期間：7月15日(金)～29日(金)

※定員に達し次第受付終了いたします。



7/29(金)
参加申込受付
締め切り

《第一回》8/20(土) 倉敷市芸文館 201 会議室

- 10:00 ガイダンス、くらしきジュニア防災リーダーの心得
↓ 水害は逃げるが勝ち！防災おやこ手帳
↓ 身近なものでできる防災グッズ作り
↓ 昼食・防災食の試食
↓ くらしきの災害の歴史を学ぶ
15:30 ゲームで楽しく防災
宿題：防災クイズを作ってみよう

夏休みの
宿題にも
なるよ!



《第二回》8/21(日) 防災研修バス旅行(人と防災みらいセンター・神戸市)

- 8:00 倉敷出発 ※集合場所については別途ご連絡いたします。
↓ 人と防災みらいセンターにて見学・昼食
↓ ※お弁当・水筒をご持参ください
18:00 倉敷到着



《第三回》9/3(土) 倉敷市民会館 第4会議室

- 9:30 命を救う技術を学ぶ(普通救命講習、応急手当など)
↓ 倉敷市消防局長発行の救命講習修了証がもらえるよ!
↓ 昼食・防災食の試食
↓ 民間救急車の仕事を知ろう
↓ 宿題披露! 防災クイズ大会
15:30 倉敷ジュニア防災検定にチャレンジしよう!
防災教室で学んだことを力試し。
家庭学習の頑張りも評価し、後日認定証とキーホルダーを進呈!



全員に認定証とキーホルダーを進呈!
※画像はイメージです

講師紹介 ファシリテーター：香川大学 磯打研究室学生、がくまび



香川大学
准教授
磯打 千雅子



川辺復興プロジェクトあるく
代表・防災士
楨原 聡美



特定非営利活動法人
ピースウィンズ・ジャパン
国内事業部次長 橋本 笙子



一般社団法人epoおかやま
笑顔プロジェクト
代表 村上 浩司



真備町・川辺小学校
元校長
本多 卓郎



倉敷消防署職員

【注意事項】

- ・お支払いいただいた参加費については、返金できませんのでご了承ください。
- ・特別な配慮が必要な児童には、日帰り研修の保護者の同伴(実費負担)もしていただけます。
- ・教室の見学をご希望の保護者の方は、見学していただいても構いません。
- ・認定証の授与は小学校からいたします。参加状況など小学校の先生にお伝えさせていただきます。
- ・スケジュール及び内容につきましては、変更する場合がございます。



USAID
FROM THE AMERICAN PEOPLE

peace winds
JAPAN

アンケート集計結果報告



香川大学 創造工学部 防災・危機管理コース 2年
中筋美佑
中村梨聖
長与浩大
土岐祥太郎

アンケートへのご回答、ありがとうございました！

調査方法

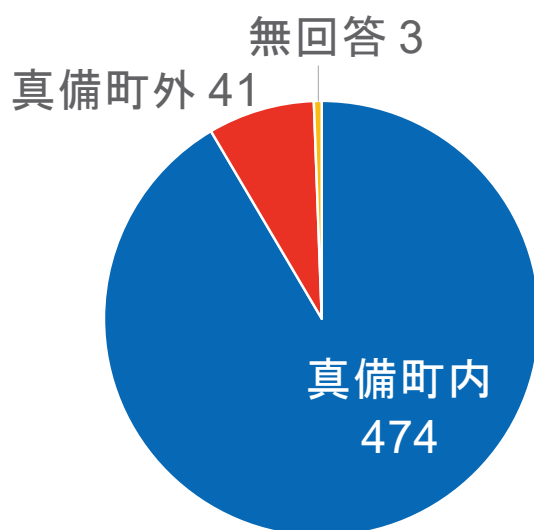
- ・川辺地区1383世帯(配達地域指定)へ郵送配布
- ・調査期間:2022年5月9日～31日
- ・回答:郵送回収426件、オンライン92件 計518件(回収率37.5%)
- ＞前回:1604世帯(罹災証明書発行) 回答計565件 (回収率35.2%)

目次

- 1, 災害が起きた時の行動について
- 2, 避難するための準備状況
- 3, 情報共有の方法
- 4, 防災に関する興味・関心
- 5, まとめ

1, 災害が起きた時の行動について

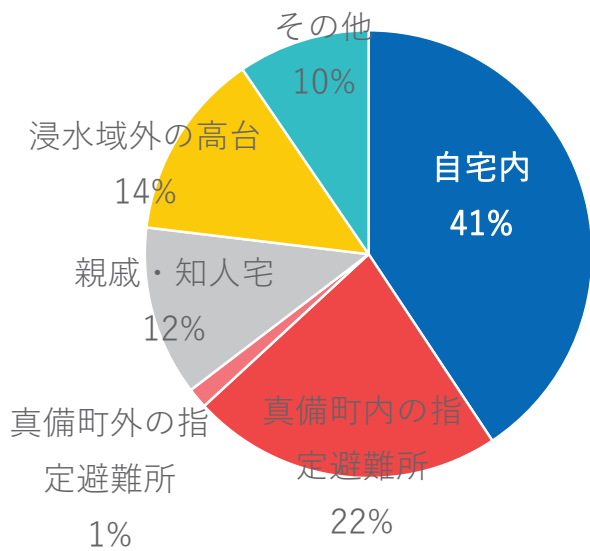
災害発生当時、真備町内に住んでいた人と町外に住んでいた人



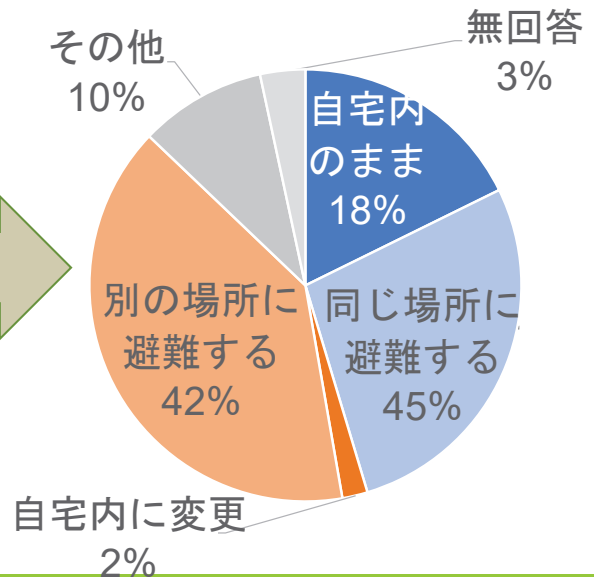
1, 災害が起きた時の行動について(真備町内)

当時と今後で選択は変わった?

平成30年7月7日朝8時にいた場所



次に避難するとしたら...



対象者: 西日本豪雨災害当時、真備町内に住んでいた人(474人)

1, 災害が起きた時の行動について(真備町内)

当時、自宅避難を選択した方の今後の選択は?

2020年

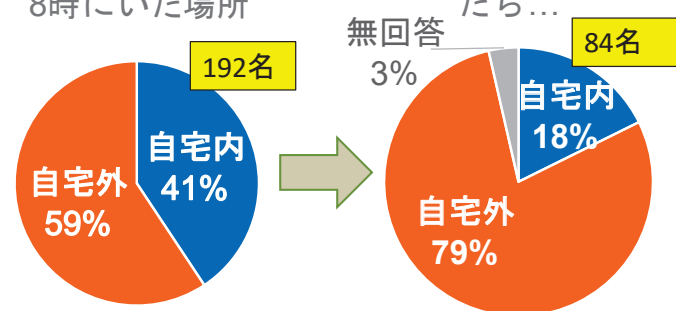
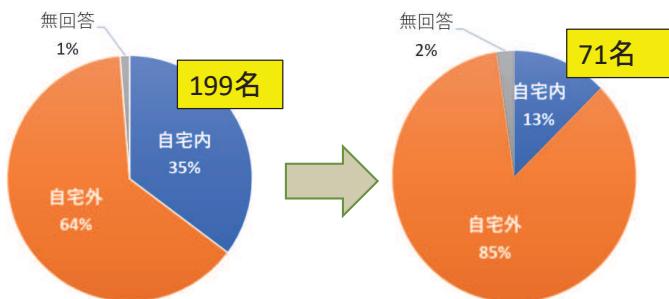
2022年

平成30年7月7日朝8時の時点でいた場所

次に避難するとしたら

平成30年7月7日朝8時にいた場所

次に避難するとしたら...



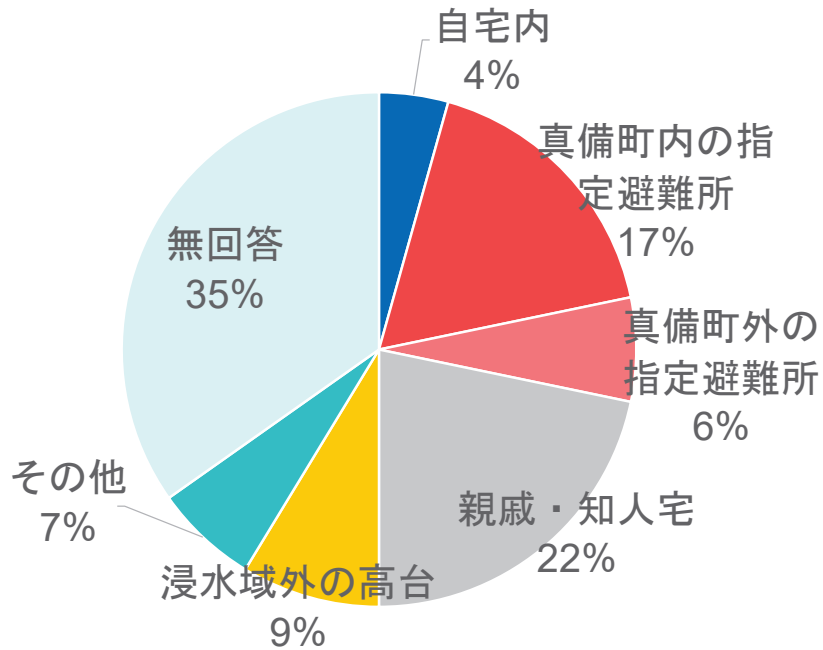
自宅内に避難した人の約**35.7%**が次も自宅に避難すると回答

自宅内に避難した人の約**43.8%**が次も自宅に避難すると回答

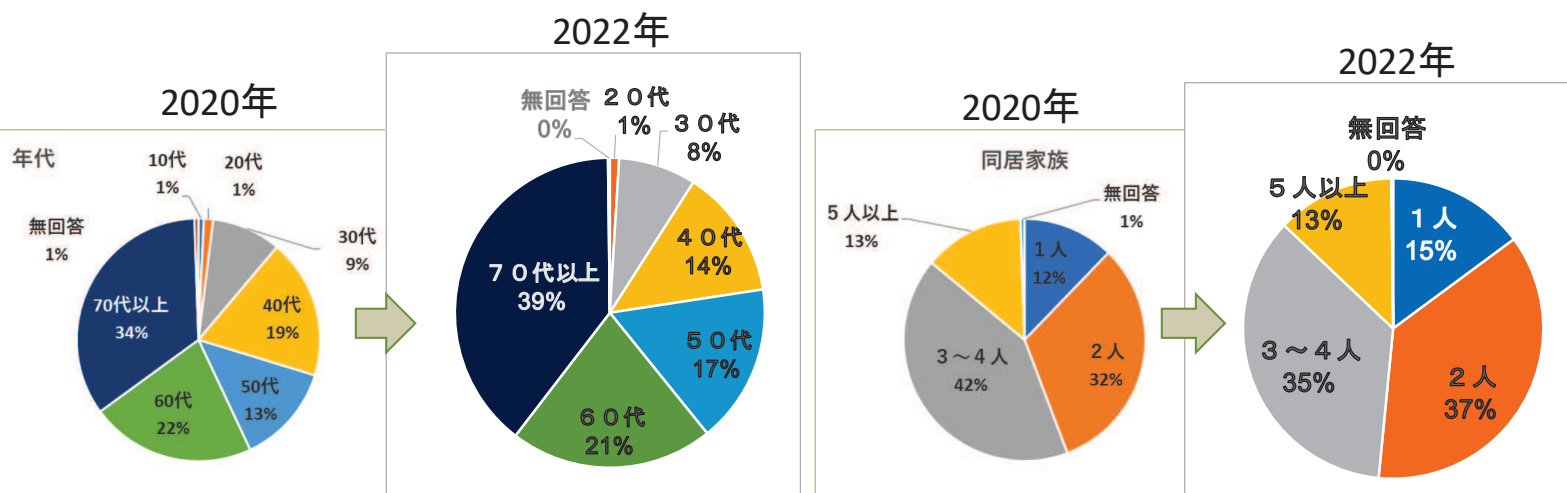
対象者: 西日本豪雨災害当時、真備町内に住んでいた人(565人)

対象者: 西日本豪雨災害当時、真備町内に住んでいた人(474人)

1, 災害が起きた時の行動について(真備町外) 次に避難するとしたら...



1, 災害が起きた時の行動について 回答者の年代、同居家族は？



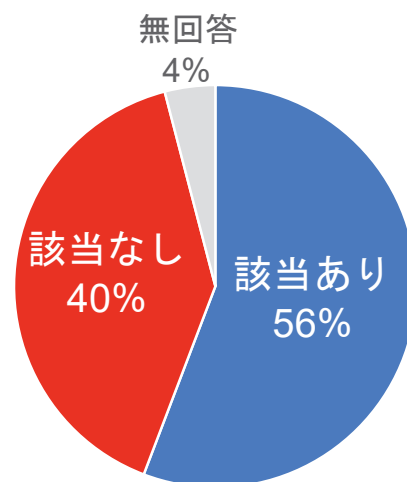
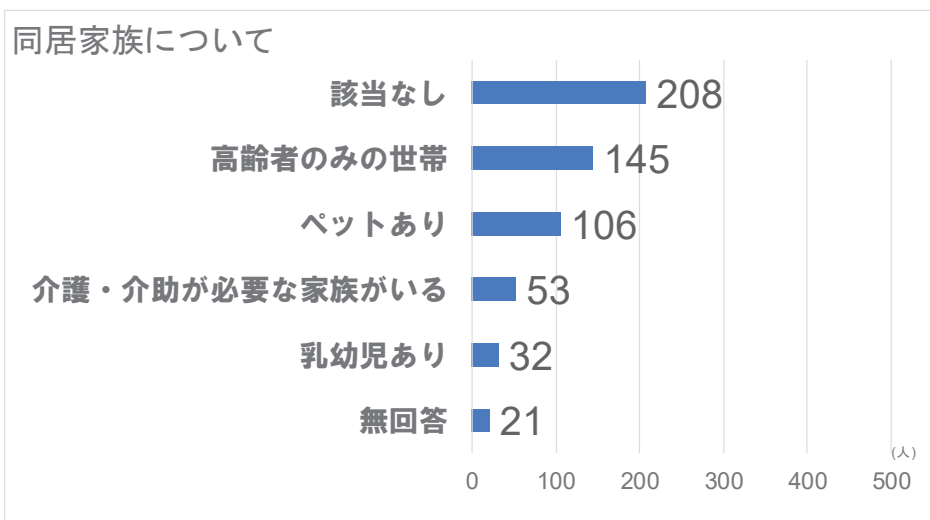
70代以上の割合増加
↑↑

1~2名の割合増加 ↑↑

1, 災害が起きた時の行動について

避難に配慮が必要な方は？

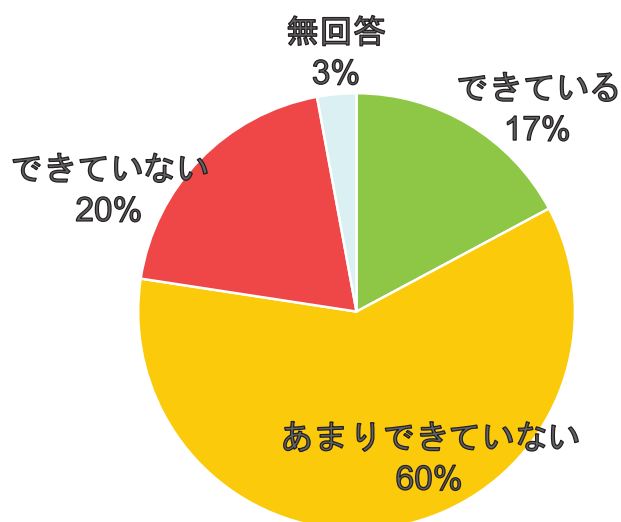
同居家族に
避難に配慮が必要な方がいる割合



対象者: 518人

2, 避難するための準備状況

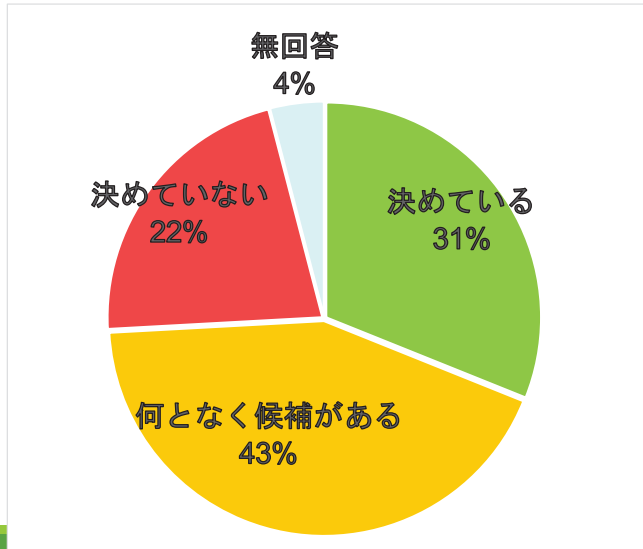
非常時の持ち出し品や備蓄品を用意している？



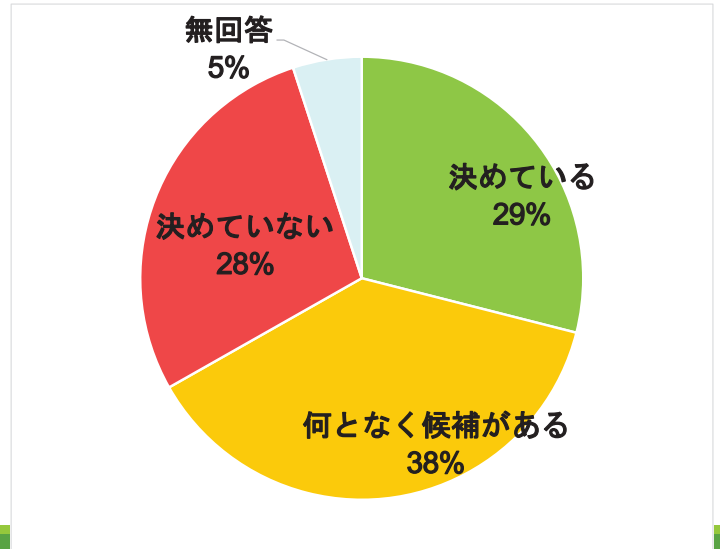
2, 避難するための準備状況

マイ避難先や避難するタイミングを決めている？

マイ避難先

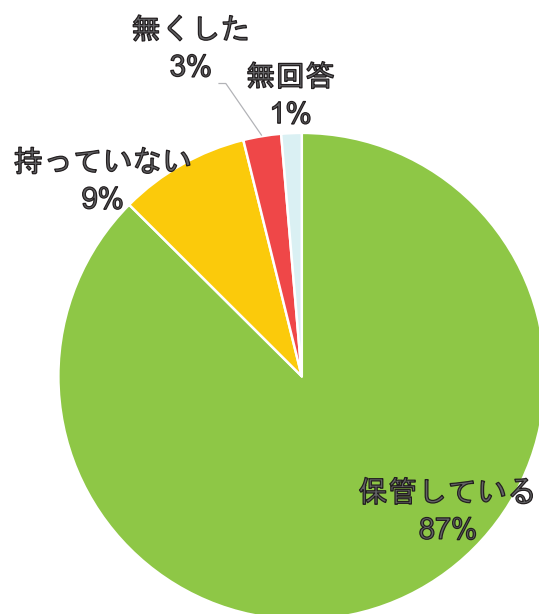


避難タイミング



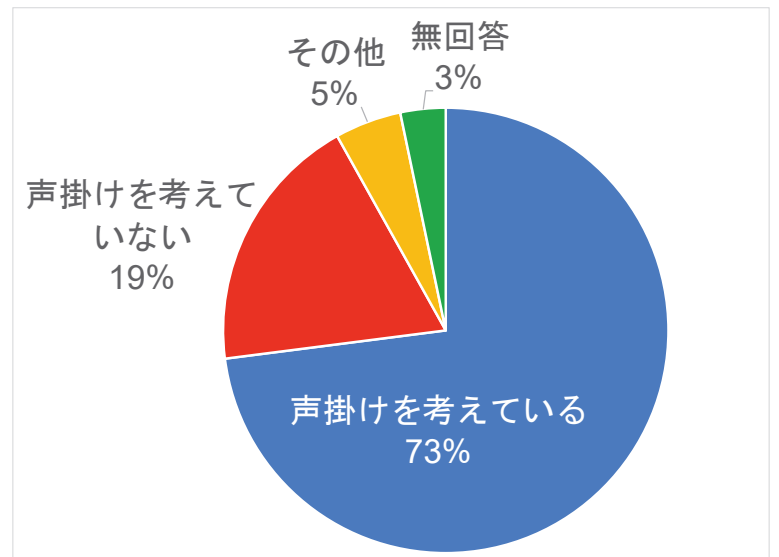
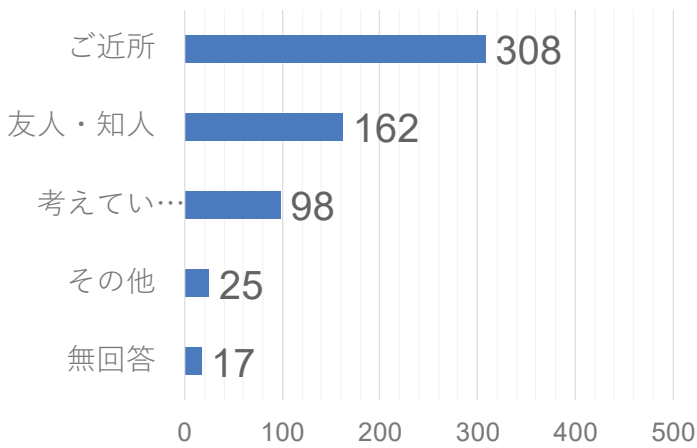
2, 避難するための準備状況

黄色いタスキを保管している？



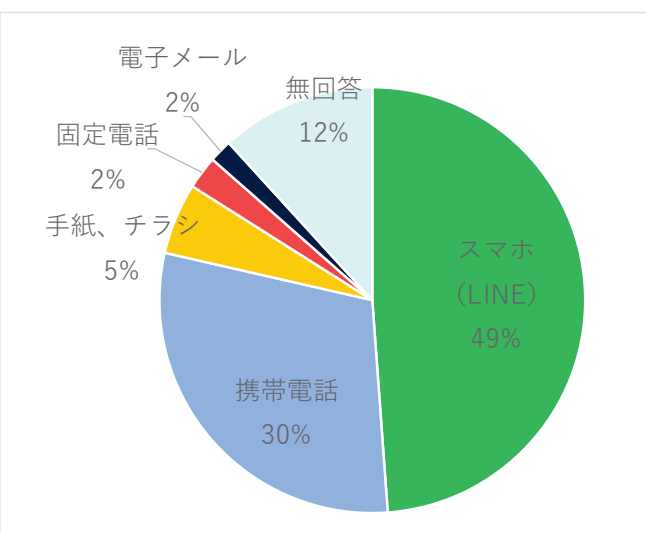
2, 避難するための準備状況

声掛けを考えている？

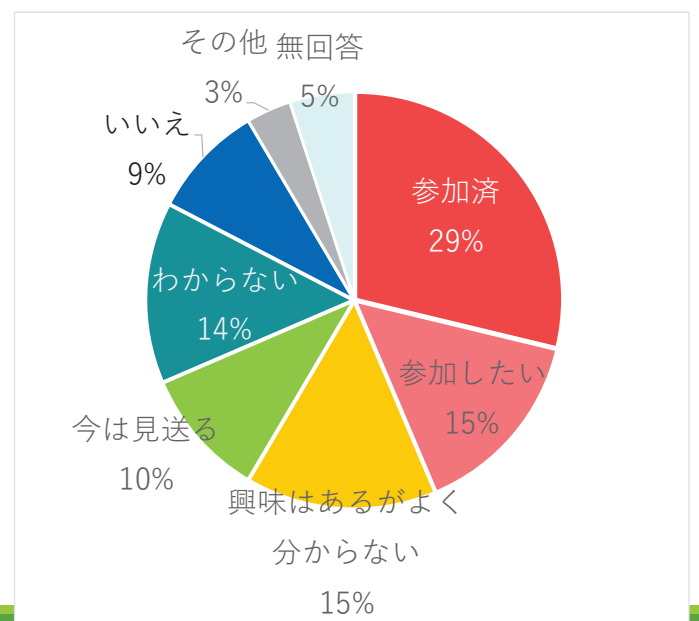


3, 情報共有の方法

情報共有の連絡手段は？



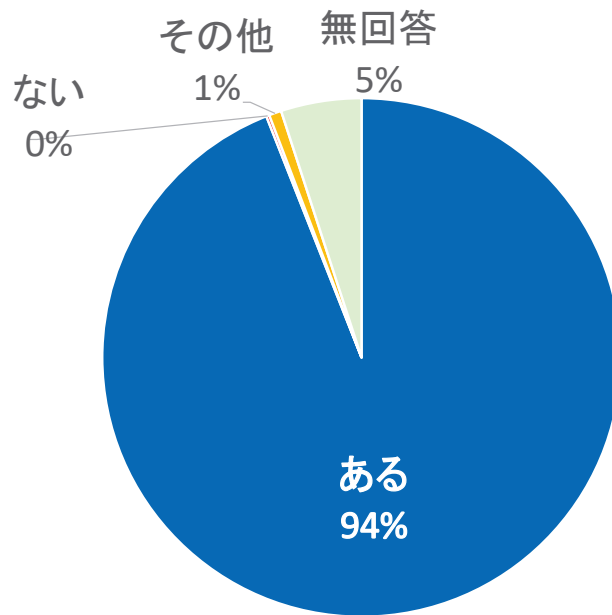
LINEでの情報共有は？



4, 防災に対する興味 どんなことを知りたいか

避難先、避難ルート、避難
川辺地区の
非常時の持ち
炊き出しや避難所運営につ
ご近所と声かけができる仕
要配慮
防災
自主防災組織
楽しく学

防災について知りたいことが...



6

400

500

まとめ

- ・要配慮者の増加
- ・マイ避難先、避難タイミングが決まっている人が少ない
- ・声掛けを考えている人が多い

みんなで川辺地区の防災を考えていきましょう！